

ラレーシュワリ

ラレーシュワリ(1320年から1392年ごろ)は、カシミール出身の神秘主義者で、カシミール語で「話」を意味するヴァークと呼ばれる四行詩を数多く作りました。伝統的なシャイヴァイト(シャイヴィズムを信仰する人)の一家に生まれましたが、ララはその地方固有の言語で書き、以前はサンスクリット語のみで与えられていたシャイヴィズムの教えを、カシミールのすべての人々が触れられるようにしました。

若い頃に、彼女のグル、シッダ・シュリカントウに会い、彼が彼女にカシミール・シャイヴィズムの神秘的な伝統を伝授しました。修行をし、ララはすべての肉体の意識を超えたアヴァドゥータの境地に到達しました。その人生の最後には、彼女は溶けて一つの閃光(せんこう)となってサマーディに入り、宇宙と一つになったと言われています。

